

市長メッセージ

「第39回反核平和の火リレー」に御参加の皆様が、本日無事に到着されましたことを、心からお喜び申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、例年どおりの取組を行うことが難しい状況の中、感染防止策を講じながら、今年も「反核平和の火リレー」を開催されましたことに、深く敬意を表します。

1945年8月6日、広島は人類史上最初の原子爆弾投下により街は一瞬にして廃墟と化し、多くの尊い命が奪われました。かろうじて生き延びた被爆者は、心身に深刻な傷を負いながらも、自らの体験を語り、「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」との思いと平和への願いを訴え続けています。こうした被爆者の願いにもかかわらず、世界では自国第一主義が台頭し、国家間の排他的、対立的な動きが緊張関係を高めています。

「核兵器のない平和な世界」を実現するためには、市民社会の皆様が力を合わせて行動し、国際世論の醸成・拡大に向けた大きな潮流を作っていくことが重要です。また、被爆から75年を迎え、被爆者の高齢化が進み、原爆の悲惨さを自らの体験として語るができる人々が少なくなる中、若い世代が、平和を希求する心を確実に引き継いだ上で、核兵器のない世界の実現に向けた取組の主役となっていくことが一層重要になっています。

そうした意味から、「語り継ごう 走り継ごう ヒロシマの心を」というスローガンの下、志を同じくする青年女性の皆様が、核も戦争もない世界を目指して、平和の火を懸命に走り継がれたことは誠に意義深く、世界恒久平和を願う熱い思いが、県内各地の多くの人々にしっかりと伝わったものと確信しています。

皆様には、今後とも、被爆者の願いに応え、「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、共に力を尽くし行動してくださることを心から期待しています。

終わりに、皆様の今後ますますの御健勝と御多幸を心よりお祈りいたします。

令和2年(2020年)7月31日
広島市長 松井 一 實